

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	経営情報学専門演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	55007			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	経営情報学科			対象学年	5		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	なし。適宜こちらから提供する。						
担当教員	挾間 雅義,根岸 可奈子,中村 英人,新 任						
到達目標							
1. 問題を解き、第三者へわかりやすく説明することができる。 2. 日本と海外の国における経済や文化、政治、地理の違いについて説明できると同時に、独自の考察を英語で行うことができる。 3. 財務諸表の分析をして分かりやすく説明することができる。 4. 対象企業のビジネスモデルを分析し、説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
評価項目1		英語で経営戦略論に基づき対象企業を分析、独自の考察し、聞き手に適切に伝えられる。	英語で経営戦略論に基づき対象企業を分析、考察し、聞き手に適切に伝えられる。	経営戦略論に基づき対象企業を分析、考察し、聞き手に適切に伝えられる。	経営戦略論に基づき対象企業を分析、考察し、聞き手に適切に伝えられない。		
評価項目2		対象企業のビジネスモデルを分析し、その成功要因や課題を考察し、第三者へわかりやすく説明することができる。	分析企業を選定し、ビジネスモデル分析のフレームワークに対象企業を当てはめ、その成功要因や課題を考察することができる。	ビジネスモデル分析のフレームワークの用語が、説明できる。	ビジネスモデル分析のフレームワークの用語が、説明できない。		
評価項目3		学習内容を理解し、問題を作成および解法を考え、それを第三者へわかりやすく興味をもたせるような説明ができる。	オペレーションズリサーチで学習した内容の演習問題を説明することができる。	オペレーションズリサーチに関する基本的な演習問題を解くことができる。	オペレーションズリサーチに関する演習問題を解くことができない。第三者へ説明できない。		
評価項目4		国際問題に関するアクティビティを十分に準備・主導することで参加者に目的と課題をよく理解させられる。	国際問題に関するアクティビティを準備・主導することで参加者に目的と課題を理解させられる。	国際問題に関するアクティビティを準備・主導することで参加者に目的を理解させられる。	国際問題に関するアクティビティを準備・主導することで参加者に目的と課題を理解させられない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	通年開講。本授業では、これまでに経営系科目の授業で修得した経営管理、財務・会計、オペレーションズリサーチ、統計などの知識やスキルにもとづいて、業界・企業研究をグループ単位で行う。具体的には、グループごとに調査・研究の対象とする業界や個別の企業を決定し、事業構造や財務指標、競争戦略などに関する定性的・定量的な分析を展開する。そして、企業経営上の解決すべき課題の抽出や解決案のデザインなどを行う。また、その成果を適切にレポートにまとめ、効果的なプレゼンテーションをする能力の修得と向上をめざす。なお、その過程ではグループ内外における学生同士による活発なディスカッションを促し、演習の意図の理解と学生の主体的な取り組み、ならびに論理的な思考と文章表現力を高める。これらのことにより、企業経営に関する実践的で幅広い視野や洞察力、また、さまざまな経営技法の応用力を涵養することを目的とする。 ※実務との関係 ・この科目は、企業及び地方公共団体において、情報システム構築や経済分析を担当した経験を持ち、さらに、MOT（技術経営修士（専門職））の学位を有する教員が、その実務経験と知識を活かして、企業のビジネスモデル分析について、演習形式で授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	(1) 経営学や会計学などの観点から演習課題の目的を把握し、その内容を理解し、説明することができる。 (2) これまでに修得した経営系科目の専門知識とスキルにもとづいて、グループでの討議に積極的に参加し、演習に適切に取り組むことができる。 (3) 演習課題の成果を適切にレポートにまとめ、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。						
注意点	最終に報告書の提出が必要です。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introduction		Understand and explain the purpose and outline of this exercises		
		2週	Detail of Introduction on the companies		Select the target companies and explain the details of them in English.		
		3週	Positioning map and Five Forces		Understand the relationships between companies and stakeholders from the characteristics of the industry. Draw a positioning map and Five Forces with explanation.		
		4週	SWOT analysis and PPM		Based on the business strategy theory, analyze SWOT in the companies and PPM in English.		
		5週	comparative survey of the strategies		Clarify the similarities and differences in the strategies of the target companies.		
		6週	Questionnaire survey		Consider question items based on your group's analysis and conduct questionnaire survey in Teams. Explain and consider the results .		
		7週	presentation		Present your analysis and consideration in English with members in your group.		

後期	2ndQ	8週	presentation	Present your analysis and consideration in English with members in your group.
		9週	ビジネスモデル分析 1	Gr分け、分析対象の選定、ケーススタディにおける成功要因を説明できる
		10週	ビジネスモデル分析 2	ビジネスモデルキャンパスの概要を説明できる
		11週	ビジネスモデル分析 3	ビジネスモデルキャンパス演習（顧客セグメント、価値提案、チャネル）
		12週	ビジネスモデル分析 4	ビジネスモデルキャンパス演習（顧客との関係性、収益の流れ）
		13週	ビジネスモデル分析 5	ビジネスモデルキャンパス演習（キーリソース、主要な活動）
		14週	ビジネスモデル分析 6	ビジネスモデルキャンパス演習（キーパートナー、コスト構造）
		15週	プレゼンテーション	分析結果を説明して、第三者を納得させることができる
		16週	プレゼンテーション	分析結果を説明して、第三者を納得させることができる
	3rdQ	1週	オリエンテーション オペレーションズリサーチの復習① ・線形計画法、日程計画法	・演習内容を理解できる ・線形計画法、日程計画法を理解して簡単な問題を解くことができる。
		2週	オペレーションズリサーチ復習② ・AHP、在庫管理	・AHPを理解できる。 ・在庫管理について理解できる。
		3週	オペレーションズリサーチ復習③ ・待ち行列理論	・待ち行列理論について理解できる。
		4週	グループ演習と個別演習の問題を配布 資料作成	・グループで資料作成の準備ができる
		5週	グループ演習と個別演習の問題を配布 資料作成	・グループで資料作成の準備ができる
		6週	発表会（50分間の動画作成）	・内容を分かりやすく、関心をもたせるような説明ができる。
		7週	発表会（50分間の動画作成）	・内容を分かりやすく、関心をもたせるような説明ができる。
		8週	国際貿易	貿易ゲームを通じて南北問題をはじめとする国際問題について理解し説明できる。
	4thQ	9週	アクティビティ選択	担当するグループアクティビティを決め、そのやり方を検討し準備できる。
		10週	アクティビティ1（SDGs、レアメタル）	グループでアクティビティの主導を担当し、他の学生にアクティビティの目的を理解させられる。
		11週	アクティビティ2（力のはく奪、豊かさとは何か）	グループでアクティビティの主導を担当し、他の学生にアクティビティの目的を理解させられる。
		12週	アクティビティ3（100人の村）	グループでアクティビティの主導を担当し、他の学生にアクティビティの目的を理解させられる。
		13週	アクティビティ4（コーヒーからみる生産国の現状）	グループでアクティビティの主導を担当し、他の学生にアクティビティの目的を理解させられる。
		14週	アクティビティ5（ファッションにみる環境問題）	グループでアクティビティの主導を担当し、他の学生にアクティビティの目的を理解させられる。
		15週	アクティビティ6（難民問題）	グループでアクティビティの主導を担当し、他の学生にアクティビティの目的を理解させられる。
		16週	振り返り	主導したアクティビティの課題点を導出し改善案を提示できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3	
			工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	3	
			工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3	
		情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	
		グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
			グローバル化・異文化多文化理解	様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
			グローバル化・異文化多文化理解	異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
専門的能力	分野別の専門工学	経済・ビジネス系分野	会計	それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	
				財務会計の役割、法規制について説明できる。	4	
				財務会計の基本原則について説明できる。	4	
				貸借対照表の区分と内容について説明できる。	4	
				損益計算書の区分と内容について説明できる。	4	
				財務諸表の各項目の認識および測定方法について説明できる。	4	
				キャッシュフローの計算書の区分と内容について説明できる。	4	
専門的能力	分野別の専門工学	経済・ビジネス系分野	会計	連結財務諸表の連結の範囲について説明できる。	4	

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	連結財務諸表の作成について説明できる。	4	
				財務諸表分析の指標について説明できる。	4	
				会計基準のグローバル化について説明できる。	4	
				経営科学		
				PERTについて説明できる。	4	
				AHPについて説明できる。	4	
				待ち行列について説明できる。	4	
				在庫管理について説明できる。	4	
				線形計画法について説明できる。	4	
				数理統計		
				一次元データを整理してヒストグラムを作成できる。	5	
				一次元データの平均、分散、標準偏差を求めることができる。	5	
				二次元データを整理して散布図を作成できる。	5	
				二次元データから相関係数・回帰曲線を求めることができる。	5	
				異文化理解		
				外国語で書かれたビジネスに関する文章を要約することができる。	4	
				専門分野のテーマについて、エッセイを外国語で書くことができる。	4	
				専門分野のテーマについて、外国語で議論することができる。	4	
				専門分野における異文化コミュニケーションの具体的事例について評価できる。	4	
				言語が話されている地域の社会的・文化的な背景まで理解した上で言語を使用することができる。	4	
				地球規模で発生している問題の重要性を理解した上で、外国語を用いて調査し、議論することができる。	4	
	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	

				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	50	0	0	0	50	100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】	0	30	0	0	0	30	60
思考・推論・創造への適用力	0	20	0	0	0	20	40
汎用的技能【論理的思考力】	0	0	0	0	0	0	0
態度・志向性(人間力)	0	0	0	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	0